# 令和８年度石狩管内指導農業士・農業士会視察研修会報告

令和８年６月11日、令和８年度石狩管内指導農業士・農業士会視察研修会を実施しました。

今回の視察研修は、石狩市の「越後浩義」様の農場の見学、また江別市の「えみくる」に「有限会社ファームファーム」の代表取締役本間正二様、そして新規就農者の村山正倫様をお招きしてお話していただきました。今年度は53名が参加し、そのうち当別町から新規就農者が2名、道央農業振興公社と当別町から合わせて9名の農業研修生に参加していただきました。また、当会会員からは指導農業士13名、農業士8名が参加しました。研修先の移動は昨年同様バスでの移動でしたが、大型バスがほぼ満車状態となり、車内は活気に溢れ大変賑やかでした。バス内で行われた開会式では、恵庭市の長谷川会長の挨拶から始まり、石狩振興局産業振興部農務課長の挨拶、普及センターからの事務連絡、参加者の自己紹介と続き、短い車内での移動時間ではありましたが、交流が深まりました。

バス内での会長挨拶

越後浩義方での集合写真

視察先1カ所目は、主にミニトマトの栽培をしている指導農業士の越後様の農場です。越後様には、就農の経緯や栽培方法、また農業研修生の指導方法等についてをお話していただきました。また、越後様の農場で研修をしている農業研修生の方から、農業に携わろうと思ったきっかけや今後の展望、越後様の尊敬するところ等についてをお聞きすることができました。質疑応答では、参加者からの質問に対し、真摯かつユーモアを交えながら丁寧にお答えいただき、終始和やかで活発な雰囲気でした。

視察先2カ所目は、「江別市都市と農村の交流センターえみくる」に、江別市の「有限会社ファームファーム」の本間様と村山様にお越しいただき、本間様には会社の経営概要や新規就農者が農業を始める際に生じる問題等についてをお話していただき、村山様には茨城県から移住し、北海道で就農しようと思った経緯や今後の展望についてをお話していただきました。質疑応答では、お二方の回答からさらに深く興味を持った参加者が多く、たくさんの質問が飛び交っており、「農薬ドローンやGPSを導入した種まきや収穫」についてや「奥様との馴れ初め」、「就農するにあたって奥様はどう考えていたか」など会場は大いに盛り上がっていました。

えみくるでの講演の様子

視察研修会終了後には札幌市のすすきのに移動して交流会が行われました。今年度は39名が集まり、地域・年齢・性別の垣根を越え、農業に携わる方々の貴重な交流の場となり、終始笑い声で満ちあふれていました。研修会場やバス内でも会話が弾み、楽しく研修を受けることができたため、あっという間に時間が過ぎていったように感じました。参加者のみなさまお疲れ様でした。

（石狩管内指導農業士・農業士会事務局）